議長ティータイム

日時：令和３年７月１２日（月）午後１時～
場所：議長執務室

１　今定例会を振り返って

今日は急に時間変更させていただいて申し訳ございません。また変更したにもかかわらず、こんなにたくさん来ていただき、ありがとうございます。

今議会もいろいろな議案などがありましたが、今日で６月定例会が終わって、昨日日曜日の議会がありました。私が議員になって現在５期目になりますが、日曜日の議会は初めての経験でございました。今のコロナの状況、緊急事態の再延長に伴ってということで昨日議会をしたところでございます。

今定例会を振り返ってですが、１つ目は代表質問における再質問での一問一答方式の導入について今定例会から試行しました。実は、私が県議になって１期目のときは一般質問も再質問はそんなになくて、この間、議会の改革が進んでいると感じております。代表質問ももちろん各派を代表してそれぞれ質問を行いますが、一括で質問して、一括で答弁して、また一括で質問して、という感じでした。もっと言いますと、１期目のときは再質問もあまりありませんでした。代表質問で全部投げて、答弁をもらって終わっているというのがほとんどでした。答弁の後に、特に与党、これは保守革新に関係なく、与党の再質問はほとんどなかったというのが私の記憶です。近年はこの代表質問に対しても再質問をするようになり、今回から一問一答方式にしたということで、恐らく見ている人からするとキャッチボールがある、やり取りがあるという点で、少しは分かりやすくなったのではないか、議論が深まるという点でも、今回のこの取り組みはよかったのではないかと思っております。

２つ目は県立中部病院における新型コロナクラスターのことで、今回いろいろな質問質疑がありました。あれだけ新聞マスコミで報道が大きく取り上げられ、なおかつ記者会見も中部病院でされたり、委員会でも議論して、今日もまた全会一致で議会として決議を出したというのは、かなり異例のことではないかと思っております。

まだいろいろ課題があるかもしれませんが、結果、議会の中でこの数字、51 名の感染者と 17 名が亡くなったということが確認できたことは、議長である私としては、しっかり議会が機能しているあかしだと思っております。これは与野党問わず議会の権能、議会は言論の府ですので、それは県民のためにやっていくべきと思います。コロナ対応は去年からずっと取り組んでいて、ほとんどの議会でコロナの対策や補正予算などを組んできましたので、今回のこのクラスターなどについても、県も今後は速やかに公表することになったということからしますと、県民のためにそれはしっかりやるべきではないかと思っておりますので、１ヶ月公表が遅れたということは問題ではないかというのが率直な感想でございます。これは与野党の議員も多分同じ感想ではないかと思っております。

短いですけれど、私のほうからは以上でございますので、なるべく皆さんからの質問に答えていきたいと思っておりますので自由に御発言ください。

２　質疑応答

（記者）

県立中部病院における新型クラスターについて、議会は機能していたというご発言がありましたが、どういう面で議会は機能していたということですか。

（議長）

このときの質問で、最初に照屋守之議員が質問しました。県立病院はコロナの指定病院であり、クラスターはどうなっていますかと質問したら、最初はそこに何十名ではなくて、中部圏域で 5 名などと答えていましたが、やり取りをしている中でこの数字が出ました。議長である私から見て、このやり取りの中で本会議場で初めて数字が公に出たということが、機能しているということです。極端に言いますと、もしあそこで当局が突っぱねて、もうありませんと言って、その後に、結果クラスターがあって 51 名、亡くなった方が 17 名ということになったら、もっと問題になっていたと思います。だから二元代表制として議会、議員がこういうことをしっかりと聞いていくと。最初の答弁からその後直されたということは、あまりよくありません。最初 5 名と言って質疑をやり取りする中で実はこれぐらいあったということになりますと、後はずっと言い訳になってしまいます。だから議会の機能として、議員というのはこれだけ仕事をすればこういうことが出てくるということは、今回のようなことは珍しいことだとは思いますが、結果としてはよかったと思っております。

（記者）

今の話に関連しますが、議会前には自民党、公明党と連名で知事のコロナ本部長交代を促すような記者会見を開いたりしていましたけれども、今議会を振り返って県執行部側の意見だったり答弁だったりというのをどういうふうに感じていらっしゃいますか。

（議長）

今は議長としてのティータイムですので、議長の立場として話しておりますが、先ほどありましたように自民党、公明党、あと一議員として、コロナ対策本部長を代わったほうがいいのではないかということ、そこは分けて聞いていただきたいということをまず前置きさせていただきます。それを踏まえて一議員としての率直な意見を言いますと、去年の２月からコロナ感染者が出て、ずっとやり取りをして、与野党とも皆取り組んできたことではありますが、私が所属する会派おきなわでは去年の７月、８月には、ちょうど議長に就任したという時期でもありましたので、就任挨拶で東京へ行っているときに、当時の沖縄担当大臣にも那覇空港でのＰＣＲ検査をお願いしたいという話をしました。最初は県のほうにお願いしたのですけれど、県は出発地で検査したほうがいいと。私たちも出発地で検査することには賛成です。ところが国がやらないとできませんので、予算がないとおっしゃるものですから、当時は私の記憶では、「30 億円くらい確保できる、あとは県がやるかどうかですよ」という

お言葉を衛藤沖縄担当大臣から、会派おきなわの平良昭一議員と一緒にいただきました。その後 12 月議会でコロナ対策の条例改正も出したのですが、これは否決されてきた経緯や、１年間ずっとやってきて、今度は沖縄振興計画がどうなるのか分からないなど課題が山積しています。満遍なく何でもやるということよりも、政治は結果だと私は思っております。個人的な感情というよりもこの件については率直に沖縄振興も未確定、それからコロナ対策も厳しいということを去年からずっと言ってきましたので、コロナを早く収束させないと沖縄の経済はもう厳しいと思います。これはなぜ余計に感じているかといいますと、議長になってもう１年たったのですが、要請がずっと来ています。要請は県にも行っておりますが、こちら議会にも経済対策やいろいろな陳情があり、かなり１年間陳情の対応に追われて、この陳情を私たちは受ける以上は審議はするのですけれど、その陳情に応えているかということがなかなか、県政と議会の責任もありますが、そこについては応えきれてないなという実感を、特に議長職をやっている中で感じました。実はあまり表には出ないですが、与党の内部からも役割を分担したほうがいいのではないかという話もちょくちょく聞こえているわけです。ただそれが表に言うか言わないかということで、突然言ったのではなくて、いろいろと経緯を経て、もうここまで来ると、どちらの対策もできないのであれば、三役で役割を分担したほうがいいのではないかということで、あれは私個人的に一議員として、自民党と公明党にお願いしたところでございます。

その後に、これは別に自分を正当化しようとしているわけではなくて、結果的にやはり 300 名の感染者が出たりとか、いろいろな課題が出てきたということ、今緊急事態宣言がここまで延びたということ、再三言いますが、この陸続きではない離島県の沖縄で那覇空港の対策をもっと徹底すれば、離島もそういったものももっと守れるはずだということは今でも変わりません。その対策については、あの当時、出発地で検査することにこだわっていたのですが、今は那覇空港でＰＣＲ検査もやっていますし、今度は抗原検査もやりますと、ずっと去年からこの時期から言っていることは、今や、結局やっていることになっていますよね、そこなのです。そこは、政治は結果だと思っていますので、だからといって、ずっと責めても仕方がありませんので、仕事をしないといけないということで、率直に言ったという私の考えです。

（記者）

今のこの問題ですが、中部病院の問題を受けて、専門家会議の高山医師と宮里医師の２人の方が結果的にお辞めになるという形になって、文教厚生委員会で知事としての責任をどうするのかという、かなり追及されていた中で、知事は責任の取り方というところについては明言しなかったという形になっておりますが、この件について、知事としての責任というのはどのようなこととお考えですか。

（議長）

私は文教厚生委員会の議論の中身は聞いていなくて、どういうことを指摘されたなどということは分からないのですけれど、ただ専門家会議の高山医師と宮里先生がお辞めになったということは重たいと思います。もう１つは、これも議会だったのですが、金城勉議員が、知事は専門家会議を 21 回のうち 1 回しか出席していないではないか、ということが出まし

た。出席しなくてもいいと思っているのか。私からするとやはり専門家会議の意見を聞いてそれに基づいて、どう対処するということを決めるということを考える以上、対策本部長を徹底してやるのであれば、徹底して仕事をしてほしいです。しかし結果、代理で部長が出て、その後に報告を受けるということの中で、議会でそのような指摘がされるということは、専門家会議の宮里先生が特に強く指摘していることです。そういう指摘を受けていることに対しては、専門家会議は皆さん大人なので言わないかもしれないですけれど、しかし少なからず皆さんから見ますと、皆全員かどうかは別にしても、そこに知事がトップとして出席して、医療業界の部分だけではなくて経済界やいろいろな分野の方々と網羅した意見で率直に話をしていきませんと、判断が難しいと思われます。だからいざとなったら、専門家会議の意見はうまく利用することはできるのですけれど、実は専門家会議の座長は去年か今年初めぐらいからずっと言っていましたが、医療業界は早く規制をかけたほうがいいと言いますけれど、規制をかけ過ぎて今度は経済が疲弊すると自殺者が出るかもしれないということを専門家は心配しているわけです。最近ようやく網羅した経済界も交えての会議が開かれました。本当は去年から私はやるべきだと思っていました。専門家会議で最後はどういう対処をするかということを決めるときにいろいろな意見を拾って最終的に決定して、知事が最終責任者ということが大事だと思いますので、そこが課題ではないかと思っております。この一年半余りこういった部分でいいますと、やはり信頼が欠如していることは大きいというのは私の実感で、再三繰り返しにはなるのですが、それぞれ各地域から選ばれてきた議員は、与野党問わずいろいろな意見を聞いていますので、それを議会でしっかりと質問、質疑をしていく中で、それが表に出るということは、どの県政であっても私は大事なことではないかと思っています。

（記者）

信頼が欠如していることが非常に問題ではないかということをおっしゃいましたけれども、具体的にどことどことの信頼が欠如しているということですか。

（議長）

まず１つは今回高山先生が辞めた理由について、私はそんなには、全部は分かりません。１つ言うとやはり言われたのが、新聞広告の件はずっと取り上げられています。約 2200 万の広告費の新聞広告。広告はいいけれど出すタイミングというか、当初はあれは文化観光スポーツ部が出した広告ですので、目的は誘客ではないと言っても、結局は誘客なのですよ文化観光スポーツ部だと。片やその後に感染がこれだけ増えるということは、軸足をどこに置きたいかということは明確になっていなくそこは濁す、そこが追及の的になっています。

もう１つは、先ほどお話しした専門家会議に１回しか出席していない、しかも冒頭にしか出席していないということが、まず信頼を損ねています。皆さん言いませんでしたが、多分そういう状況というのは、専門家会議に１回しか出席していないという情報は、普通は議員が持てない、分かり得ません。だから私はこれはリークだと思います。出席していないということは専門家会議の中から出る可能性もありますし、職員側から出る可能性もあります。

もう１つの懸念は、知事とコロナ対策本部や病院で一生懸命頑張っている職員という部分でいいますと、知事も悪気はなかったかもしれませんが、やはりバーベキューのツイートの

件はよくありません。本を読んでいるなどとツイートしますと、率直にいいますと、私のところに、「自分たちは子供とも会えない、親とも１年以上会っていない、だけど本人は本を読む時間はあるのか」という不満の声がたくさん届きます。だから、これだけの何千名の職員と一緒になって働こう、となりますと、本人が悪気はなかったかもしれなくても、そういうことを言われますと、やはりやる気をなくします。だからそこも踏まえて反省して、職員が一緒になってやれる、ということを言わないと県民が言うことを聞かなくなると思います。そこが信頼関係にかかわる部分だと思っております。

今もう１つ言いますと、中部病院のクラスターの件は、中部病院の院長と病院事業局長と三役の言っている意見がまだかみ合っていません。そこは幾ら決議でこうなったとしても正直言いますと、終わっていません。これは彼らが議会が終わったからこの問題は終わったと思いますと、違う問題が起きると思います。

（記者）

話題は別になりますが、今議会、与党の再編など議会の体制に対する議員の構成の部分に変化があったと思いますが、その件について議会を通して見てどのように感じられますか。

（議長）

これは議長として各会派や政党などの事情も私からなかなか物を言える立場ではありませんので、やはり政党やそういった部分の事情もあって短期間で変わりましたので、志を一緒にしている方々が一緒にやるというのが政党であり会派だと思いますので、よい意味で保守も革新も与野党も切磋琢磨して、県民のために実績を残してくれたらよいのではないかと思っております。

再編と言っても、一般有権者のほとんどの方は、恐らく政党に入っているわけではありませんので、県民のためにどれだけやってくれるのか、ということが一番の関心事だと思いますので、そこが今からどういうふうに県民が見て判断するかということになるのでないかと思います。

私としては、極力、議員が会派に関係なく、それぞれが選挙を勝ち上がってきている中で、自分たちの県政に対する思いをなるべく制限をかけないで、思いっきり議員活動をしてもらったほうがいいのではないかという思いがあります。制約主義にするよりは、主体的に議員が自由に物が言えるようにしたほうがよいと思っております。

（記者）

議会での質疑と質問について、議運でもいろいろ議論がなされたのですけれど、今後の方向性というか議長としてどうコントロールされていくお考えがありますか。

（議長）

議長としてというよりも、ほとんど議会運営委員会でルールとして決まったものを本会議場で整理するということは、そんなに簡単ではありません。そこであれだけの議員のメンバーにそこで即決して決めるということは、これをやろうとしたらけんかになります。議員はお互いある意味ライバルですので、この議員がいたら気にくわない人もいるなど、お互いい

ろいろあります。それを片側につくとまとまりません。だから基本的に議会運営委員会の役割というのはより大きくて、先ほど言ったように質問権はなるべく保証したいという一方で、ルールは必要です。そのルールは、議会運営委員会になりますので、今回の再質問の一問一答方式というのは、議会運営委員会で決まってきたということでいいますと、議会運営委員会も非常に活発的にいろいろなやり取りができており、それはありがたいと思います。試行期間ですので、これを今後どう生かすということと、結果、分かりやすくて県民のためになるという意味で、よいのではないか思っております。

私は議長だから言うわけではないのですが、沖縄県議会というのは他府県から見ても非常に活発な議会であり、それが持ち味だと思っておりますので、より分かりやすく変わっていくということはよいことではないかと思っております。

ではこの辺でよろしいでしょうか。今日はどうもありがとうございました。